

たそ

TAKUSUI
No. 780

10
October.2021

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会にむけて

特集「豊かな海」の実現に向けて 豊かな海ってなんだろう 「漁連の魚屋」加古川店の出店について

CONTENTS

- 2 特集「豊かな海」の実現に向けて
- 4 ようそろ
- 5 漁協系統功労者表彰受章者決定
第40回 全国豊かな海づくり大会 みやぎ大会
- 6 「漁連の魚屋」加古川店 出店
ノリ陸上採苗始まる
- 7 兵庫JCC通信
- 8 旬に想う
お手柄! 特殊詐欺を水際で未然防止

「豊かな海」の実現に向けて

第1部 栄養塩類管理制度創設までの軌跡

豊かな海を取り戻すための様々な取り組みを行いながら、この取り組みを進めるためには一般の方々の理解が必要なことを改めて認識しました。このため、豊かで美しい海の理念等を広く伝え、その実現には何が必要かを共に考える取り組みを始めました。

④ 豊かな海ってなんだろう？

平成30年4月にJF兵庫漁連、兵庫県などで、ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会を組織し、豊かで美しい海の理念の啓発や県内水産物の消費喚起などを行っています。

また、令和4年に明石市で開催される全国豊かな海づくり大会兵庫大会を通じて本県の取り組みを全国に発信し、その取り組みの輪を広げていきます。

全国豊かな海づくり大会兵庫大会の概要

大会名称 第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会 ～御食国ひょうご～

開催日 令和4年11月13日(日)

開催場所 式典行事：明石市民会館、海上歓迎・放流行事：明石港ペランダ護岸

基本理念(抜粋)

兵庫県が目指す豊かな海の創出に向けた取組を積極的に発信し、全国各地との交流を深めつつ、その取組を一層確実なものにするとともに、海の恵みを将来に渡り享受できる社会の実現を目指します。

大会テーマ

「広げよう **碧く豊かな** 海づくり」

青緑色を意味する「碧」の漢字を使い、植物プランクトン濃度が適切な海が全国に広がる期待が込められ、大会の理念・方針をよく表しています

大会キャラクター



はばタン

はばタンが着ている大会専用コスチュームは県内の中学生(応募時)によるデザインです

式典行事概要

表彰(功績団体等)、最優秀作文の発表
稚魚等のお手渡し(マダイ、キジハ、リ、ア1)
海づくりメッセージ、大会決議



イメージパース

海上歓迎・放流行事概要

海上歓迎(漁船団歓迎パレード、漁法紹介)
第1回放流 マダイ、ヒラメ
第2回放流



イメージパース

関連行事 明石市ほか県下数か所で企画展示、ステージイベント、物産販売などを実施
式典会場、海上歓迎・放流行事会場の様子を映像中継

機運醸成 1年前プレイベント(令和3年10月16・17日)、
(R2年度～)大会記念リレー放流、豊かな海づくりキャラバン、海づくり大会協賛行事ほか

※ 大会実施計画は令和4年3月に開催予定の大会実行委員会総会で決定される予定です。

ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会のこれまでの取り組み

漁業体験の実施

虹の仲間で海づくり

ひょうごの魚や漁業、豊かな海について学ぶ体験イベントの開催



海浜清掃



透明度観察



地魚バーベキュー

令和2年度は、新型コロナの影響で多くの事業が中止になり残念だわ！

協議会の構成員

JF 兵庫漁連、コープこうべ、兵庫県(水産課・全国豊かな海づくり大会企画課・水大気課・水産技術センター)、神戸市(農水産課)、明石市(豊かな海づくり室)



漁業体験見学船での漁場見学等

坊勢漁協「第八ふじなみ」を活用した漁業体験
延べ52回実施、参加者1,772人



底びき網漁の見学



漁獲物の選別体験

漁協等と連携した漁業体験

漁協、青壮年部、女性部等の取組と連携実施
延べ31回実施、参加者1,034人



地びき網体験



養殖カキ収穫体験

出前おさかな講習会

小中学校で県産魚の調理実習、豊かな海に関する講習を実施
延べ102校実施、参加者6,371人



豊かな海の講義



地魚の三枚おろしの実習

パートナーイベントでの豊かな海 PR 活動

県下各地のイベントに参加し、ひょうごの漁業や魚、豊かな海について PR
延べ29回実施



県民農林漁業祭



フィッシングショー OSAKA

水族館企画展の開催

須磨海浜水族園、姫路市立水族館、城崎マリンワールドと共催で実施



展示室入口



特別展ポスター

シンポジウム等の開催

「豊かで美しい海」の再生に関するシンポジウムや活動報告会の開催



シンポジウム



活動報告会



協議会の取り組みはFacebookで発信されているわ！

情報をシェアして、「豊かな海づくり」を皆で進めよう！



ひょうご豊かな海発信PJ Facebook



漫画

広報資材の作成



紙芝居



チラシ

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。
主に船を直進させるとききの命令として使われる）

これからの事

兵庫県漁協青壮年部連合会会長 山崎 大輔



皆さんこんにちは、山崎です。

この度「ようそろ」への寄稿依頼が来た後、これまでの投稿を読み漁りまして寄稿者の方々が趣味の話や仕事の話などいろいろと書いていたのを読ませていただき、僕は何を書こうかと迷いに迷いましたが、やはり青壮年部のことを書かせていただこうと思います。

現在、コロナ禍にあり緊急事態宣言中で（これを書いているときは）青壮年部活動ができない状況下にあります。

一度活動が止まってしまうと、無いことが普通の生活になってしまい再開したときに部員の皆さんが集まってくれるのか、などの不安もあります。

コロナ禍以前から参加いただける部員の数も減ってきていたので、参加したくなる様な青壮年部活動をやることよってのプラス部分をもう少し部員の皆さんに理解してもらって、参加することよってこれから先も漁業を続けていくにあたって、いろいろな浜のいろんな人と話をして人と人とのつながりをつくっていつて貰えればと思っていました。

これからコロナ禍が収束していき活動が再開できるようになってくれば、三地区（摂播、但馬、淡路）の地区活動はもちろんですが、兵庫県青壮年部としても集まって何か楽しいことが出来ないかと考えています。

人と人とのつながりや多人数が集まるとなると、コロナ禍以降の新しい生活様式とは離れてしまっていますが、感染症対策をとりつつ人と人が顔を合わせないとつながりは出来にくいと感じています。

どんな事をやるにしても数多くの部員の皆さんに参加してもらえよう頑張っていかなければならないと思いますので、これからも漁協や系統団体の皆様にはご助力、ご助言よろしく願います。

この様な拙い文章を最後までお読みいただきありがとうございます。

表紙の言葉

第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会にむけて

令和3年10月17日(日)に明石市ベランダ護岸で開催される第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会1年前プレイベント海上歓迎・放流行事における、兵庫県を代表する漁業種の漁船紹介に向けた練習の様子です。プレイベント当日は稚魚放流や大船団による漁船パレードも実施されます。去る10月3日に開催された全国豊かな海づくり大会みやぎ大会において、齋藤元彦兵庫県知事に大会旗の引継ぎが行われ、兵庫大会に向け機運が高まっております。



《今月の海上安全標語》 ～ ライフジャケットの着用は義務です ～

毎年10月は全国漁船安全操業推進月間です。ライフジャケット着用は、海中転落時の生死を分ける要因になり、浜で待つ家族に対する責任です。

着用なんて当たり前、安全あつての漁師です。 では、今月も安全操業で！

2021年度漁協系統功労者表彰受章者決定

～本県より3名が選ばれる～

JF全漁連(岸 宏会長)は、9月17日に2021年度(第36回)漁協運動功労者35人および第4回漁業振興功績者33人を発表しました。本県からは、JF明石浦 代表理事組合長である戎本裕明氏が多くの功績を認められ漁協運動功労者表彰を受章されました。またJF伊保の大西正起氏とJF但馬の犬下真司氏が漁業振興功績者表彰を受章されました。心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。なお、11月18日に予定されておりました表彰式については、新型コロナウイルスの影響により中止になりました。



犬下 真司 氏
JF但馬



大西 正起 氏
JF伊保

漁業振興功績者表彰



戎本 裕明 氏
JF明石浦 代表理事組合長

漁協運動功労者表彰

第40回全国豊かな海づくり大会みやぎ大会が開催

大会旗が兵庫県齋藤知事に引き継がれる

10月2日(土)、3日(日)の両日、「第40回全国豊かな海づくり大会みやぎ大会」が宮城県石巻市で開催され、式典、海上歓迎・放流などの行事が行われました。

クール最優秀賞等が発表されました。その後岸 宏大会推進委員長(JF全漁連会長)が大会決議を朗読し満場の拍手をもって採択され、最後に、村井 嘉浩宮城県知事から来年秋に開催が予定されている兵庫県の齋藤 元彦知事へ大会旗の引き継ぎが行われ終了しました。

式典は3日にマルホンまぎあーとテラスで行われ、リモートで参加された天皇・皇后両陛下をはじめ、全国の水産関係者が出席するなか、天皇陛下から「参加できてうれしく思う。震災の甚大な被害を乗り越え、復興が進められてきた宮城で初開催されることは大変意義深い。多くの人が豊かな海づくりに協力する契機になることを願う」などと述べられた。開催県の村井 嘉浩知事は「当たり前にある日常への感謝、豊穡な海への感謝、復興支援への感謝を忘れず、宮城の水産業の明るい未来を描きたい」と決意表明した。



稚魚放流を見守られる天皇・皇后両陛下



大会旗が齋藤知事に引き継がれる

第40回全国豊かな海づくり大会

みやぎ大会功績団体表彰

本県より3団体受章

資源管理、漁場保全に貢献したことで、第40回全国豊かな海づくり大会みやぎ大会功績団体表彰において、森漁業協同組合(森 吉秀代表理事組合長)が漁場・環境保全部門で大会会長賞、公益財団法人ひょうご豊かな海づくり協会(井上 仁理事長)が栽培漁業部門で環境大臣賞、明石市漁業組合連合会(大西 賀雄会長)が資源管理型漁業部門で水産庁長官賞を受章されました。心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。



表彰を受ける井上理事長

「漁連の魚屋」加古川店の出店について



2021年10月28日のアリオ加古川の全館リニューアルオープンに伴い、JF兵庫漁連が運営する鮮魚店「漁連の魚屋」がアリオ加古川内に新規出店いたします。

漁連の魚屋は「魚を大好きになってもらえる場所」を提供します。

店舗は、青、白、黄の3色で統一。「豊かな海」の色「紺碧の青」を表現した壁の色で来店客を迎え、魚を賣えるだけではなく、ひょうごの魚をあしらった壁面アートや、魚にまつわるムービーで楽しみながら、地元の方々に地場の魚や漁業に親しんでいただきます。

店内では、コンテナケースで鮮魚を販売するなど高鮮度と活気を訴求し、イカ釣りランプを吊り下げて、漁業との近さもアピールしています。壁の一部には、淡路島の伝統的なタイルを使い、江戸後期から昭和初期に淡路島の漁師が愛用した衣服「どんざ」の柄を再現。アートとしても楽しめる作りになっています。

また、ひょうごの魚や旬の食べ方についてもレシピや動画で学ぶことができ、魚料理が苦手な方でも一歩踏み出せるよう、高品質の兵庫県産の魚を中心とした水産物を対面販売で丁寧の説明し販売します。鮮魚以外にも、寿司、惣菜、自社冷凍品、魚に合う調味料等に加え、量販店との差別化を図るために、全国のJFグループで製造している各種商品を取扱い、安心安全で美味しい水産加工品も販売します。

浜からの期待に応えるために、1号店の漁連の魚屋三田店で培ったノウハウで、魚に関してやれることを全力で取り組み、うそをつかない商売、地道で真面目にお客様

と信頼関係を構築していき、販売を拡大させたいと思っています。

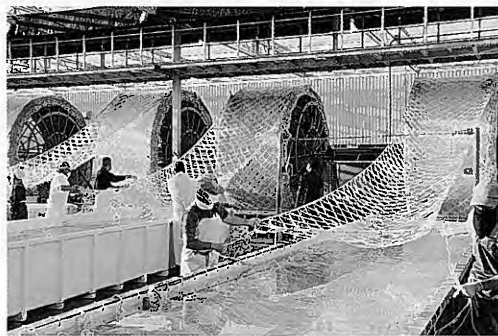
皆様のご来店をスタッフ一同お待ちしております！

(文：JF兵庫漁連)



「Instagramフォロー」をお願いします！

ノリ陸上採苗が始まる！



向上しており、採苗期間の短縮も見込まれます。

担当職員らは、網を水車から外したり、新しく網を張ったりする作業のほか、付着度合いを確認するための網切りと検鏡作業、水温・照度チェックなどの業務に追われています。

のり海藻部によると、明石・淡路の現場での作業は順調で、10月中旬までに両センターで種網約65,000反を仕上げるとのこと。

本格的なノリ養殖開幕に、今漁期への期待が高まっています。

JF兵庫漁連(田沼 政男会長)は、本年度のノリ陸上採苗作業を、兵庫のり研究所(明石市)で9月25日(土)から開始しました。毎年、気温が下がってきた9月下旬から行われており、朝6時頃から大勢の職員、パートの皆さんが作業にあたっています。

兵庫のり研究所では、今年から水車の大型化等による作業効率の向上、芽付きの均一化を図るとともに、冷水施設も整備し採苗環境が向上しているほか、施設を常設化し歩廊の設置、通路幅を広げるなど作業の効率性及び安全性が



新しい品種のぶどうにより、 産地の活性化をめざす

加西市は特産品「加西ゴールデンベリーA」をはじめ、古くからぶどう栽培が盛んです。しかし、近年は、栽培面積の縮小とともに、消費者の嗜好が加西ゴールデンベリーA等の中粒系でなく、大粒系のぶどうへ変化しました。

そこで、JA兵庫みらいは平成28年度から大粒系のぶどう品種「ブラックビート」の出荷を開始しました。加西営農生活センターの営農相談員である玉田篤志さんは、3年前からぶどう生産者への資材供給や出荷対応等を担当しており、ブラックビートの認知度向上へ向けて取り組んでいます。

玉田さんは、その足がかりとして、青果市場への出荷、販売対策に比重を置きました。出荷数の減少は、ぶどう産地としての知名度や評価が下がることにつながると考えたからです。そのため、ブラックビートを大阪や神戸など大消費地の卸売市場へ積極的に出荷し、POP広告やのぼり旗の作成といった販売促進活動に取り組みました。また、新たに出荷マニュアルを作成し、栽培や出荷にかかる講習会を開催するとともに、既存の栽培者が新たな品種を出荷しやすい環境づくりを行いました。

ぶどう生産者の菅野孝誠さんは、JA兵庫みらいのブラックビート出荷開始と同時期から出荷を行っています。菅野さんは「加西市を関西一番のぶどう産地として全国的に知れわたるように頑張りたい」と話します。

JA兵庫みらいは、「ゴールデンベリーA」と「ブラックビート」の2本柱によって加西市のぶどうの生産拡大と活性化に努めています。



ブラックビートの出来栄について話す菅野さん(左)と玉田さん

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

「ひょうごまるごと 健康チャレンジ2021」 後半スタート!

2018年から兵庫県生協連と県内医療生協、コープこうべが主催で取り組んできた「ひょうごまるごと健康チャレンジ」。今年も7月からはじまっています。運動、リフレッシュ、生活習慣、食事、の4つのコースから参加者が自分に最適な「健康チャレンジ」をみつけて、気軽に健康習慣づくりができる取り組みです。期間中30回チャレンジしたら「はがき」か「Web」で結果を報告!抽選でJTBギフト券が当たります。

目標はアレンジしたり自分流メニューでもOK!ぜひ自分の「健康」に関して考えてみて、参加してみませんか。達成したときの充実感はきっと健康づくりの成果に比例すると思いますよ。10/1から2回目のチャレンジがスタート。皆さまのご参加お待ちしております。

【参加方法】

- ①チャレンジシートを手に入れる。WEBからも参加出来ます。
※チャレンジシートは各医療生協の窓口やコープこうべの店舗で配布しています。
- ②シートにあるコースのメニューを参考にチャレンジ項目を決める。

- ③マイチャレンジカレンダーにチャレンジ項目を書き込み、取り組んだ日付を記入する。
- ④30回チャレンジできたらシートの結果報告はがきを送る。

【参加期間】

2021年12月31日(金)まで

チャレンジシートはこちらから

兵庫県生協連 健康チャレンジ [検索](#)



気軽にチャレンジ!健康習慣づくり!

目標達成に向けて、30日間継続して健康習慣を身につけてください。

A 運動コース

1000歩
毎日1000歩歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

「健康」「習慣」「チャレンジ」は健康づくりの三大要素。プラス「楽しい」「友達」「仲間」が健康習慣を成功させるポイント。あなたに最適な「健康チャレンジ」を見つけて、ぜひ一歩を踏みだしてみよう!

B 生活習慣コース

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

C リフレッシュコース

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

D 食事コース

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

10分
毎日10分歩く。歩数計や歩数計アプリで歩数を記録する。

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想い

写真と文
遊方子

魚偏に京(ケイ)

◆クジラは巨大な魚と考えられ、魚偏に京という漢字になった。京に大きいという意がある。一九三六年、捕獲し過ぎを反省しノルウェイなど17ヶ国で国際捕鯨取締条約を作り(日本は一九五一年に加盟)毎年、委員会を開いて捕獲頭数を制限したが鯨は減り続け、絶滅が危惧され遂に捕鯨禁止となる。欧米諸国は鯨油採取が目的の捕鯨だが、日本人は油から肉・皮・骨に至る全てを利用して一切捨てない。食べた後は供養の《鯨塚》を建て、法要や祭祀も行う。捕鯨禁止で鯨肉が殆ど出回らず食べる機会が少なかったが、令和元年、31年振りに商業捕鯨を再開する事になった。スーパー店頭にも僅かだが並べられ始めた。

◆厳しい国際世論の中、日本は国際捕鯨委員会を脱退した。鯨が食卓から遠のいて久しく、消費がどれ程になるか先行きは決して明るくは無い。鯨の味を知らぬ人も多い。鯨は保護すべき動物という意見もあるが、日本人と鯨の関係は随分と古いのである。三内丸山遺跡から沢山の骨の化石が出土、縄文時代から食料としていたようだ。文献では『古事記』に久治良と出ている。当時は湾内に迷い込んだのを捕獲する程度だったらしいが「鯨一頭で七浦が潤う」という故事があるように、大勢の人たちが鯨の恩恵に浴していたのだと思われる。

◆古式捕鯨については16世紀の古文書『西海鯨鯢記』に詳しい。知多半島の師崎の漁師が、鯨を銚で突く事を考え出して成功したとある。伊勢湾にも鯨が現れたようで、それが熊野の太地へ伝わり産業として栄え、のちに肥前や五島灘の大捕鯨地へと伝えられる。西海地域で捕鯨が盛んになったのは、潮流や地形が大いに関係する。捕鯨基地としての繁栄は、鯨が回避する暖流・寒流の交差する所が最適で、生月島に大きな組織「鯨組」が生まれ、大勢の労働者が雇用された。勇ましい捕鯨の様子は『勇魚取絵詞』図に残る。採った鯨の解体や加工に、大勢の職人が雇用され地域活性に貢献した。鯨サマサマなのであった。

◆鯨は海の生態系の頂点にあり、天敵も少なくて長寿を誇っている。その鯨が増えたせいで、他の魚が減少したという説もある。鯨の仲間には84種もあり、主食の動物プランクトンの大食漢だから、あながち間違いないといえまい。捕鯨再開によって捕獲すれば、生態系の安定に繋がって、重要蛋白源として魚類の繁殖を願うことにも合致する。一石二鳥。鯨肉文化の再来は大いに歓迎していい。栄養満点の鯨肉が食べられる幸せを、次世代の人に伝えて喜びたい。捕鯨再開がどう展開されるのか見守って、鯨肉を使った昔の味を楽しもうと考えている。

お手柄! 特殊詐欺を水際で未然防止

去る、令和3年9月24日(金)午前11時30分頃、なぎさ信漁連津居山営業店を訪れた60代女性顧客の様子を不審に感じ、迅速かつ適切な対応により、特殊詐欺被害の未然防止に努めた窓口担当の松尾夢穂さんに対し、なぎさ信漁連黒田理事長より表彰状が贈られました。

同日、女性顧客は通帳記帳を依頼したのち、松尾さんに「豊岡市役所の男性職員から、介護保険料の還付金手続きを行いたいのので、すぐに近くのATMに向き、着いたら電話連絡を入れるように指示された。」とのこと。



この話を聞き、松尾さんは『還付金詐欺?』ではないかと疑念を抱き、ATMでの取引がまだ行われていないことを確認し、先方には連絡を入れないこと、また、連絡があっても、応答しないよう助言。

上席者の久保支店長代理とも相談し、女性顧客の了解を得たうえで豊岡北警察津居山駐在所に通報、間もなく豊岡北署員2名が駆けつけ、事情聴取を行ったところ、特殊詐欺であることが発覚しました。

日頃より窓口担当者と地域との関わりが保たれていたこと、定例的なコンプライアンス研修を通じ、被害発生を阻止する意識が醸成されていたことで、幸い大事に至ることはありませんでした。

本事案について、なぎさ信漁連から「大切な財産をお守りするためにも、利用者の皆さまには、本人確認手続きの他、高額の出金、振込のご依頼があった場合、お金の使いみちなど詳しく伺わせていただく事があります。」との協力依頼がありました。